

体育・保健体育科学学習指導研究委員会

一 テーマ

心と体に関心をもち、子どもたちが自ら学びを深める体育・保健体育学習はどうあったらよいか

二 テーマ設定の理由

体育・保健体育科における「主体的・対話的で深い学び」に関わって、学習者が学習内容や教材を通して、自らの心や体についての理解を深めたり、その変化や高まりなど新たな発見をしたりすることが、学びの深まりにとって重要であると考え本テーマを設定した。

学習者が「自ら学びを深める」学習のためには、「学習者の実態に合わせた教材化」、「単元展開・本時の流れの工夫」が重要であるため、今年度はその2点について焦点化し、研究を進めてきた。

三 研究の経過

今年度は、教育課程研究協議会の授業校である上田市立塩田中学校の授業提案を基に研究を進めてきた。

6～7月	授業構想と事前授業の参観・情報交換	単元展開と教材化について検討
8月	教育課程研究協議会本時に向けた模擬授業への参加と授業研究会	本時の流れについて検討
9月	教育課程研究協議会本時の参観	生徒の活動の様子・本時の活動時間の記録
10～12月	本時の授業の振り返りと今年度の研究のまとめ	授業記録からの考察

四 研究の内容

1 教育課程研究協議会授業校の研究を通して 単元名【ワンウェイサッカー】中学2年 種目選択

【単元の目標】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
ボール操作と空間に走り込むなどの動きによってゴール前での攻防できるようにする。	自己やチームの課題を発見し、解決に向けて練習方法を決めたり、考えたことを他者に伝えたりできるようにする。	積極的に取り組むとともに、作戦などについての話し合いに参加しようとする、作戦を実行しようとするができるようにする。

【単元の評価規準】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
【知識】 ③球技の各型の種目において用いられる技術には名称があり、それらを身につけるためのポイントについて、学習した具体例を挙げたり、テストで答えたりできる。	【技能】 ①マークされていない味方にパスを出すことができる。 ②パスを受けるために、ゴール前の空いている場所に動き、シュートすることができる。	①提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に、仲間の課題や出来栄を伝えている。 ②作戦で確認した動きをやるうとしている。 ②グループでの話し合いに参加しようとしている。

【主な学習活動と留意点】 (☆…「記録に残す評価の場面」 ※評価場面以降も改善が見られた生徒については再度評価を行う)

時	○学習活動・生徒の意識 (ICT の活用)	評価の観点			評価方法	授業改善の視点 ●取り組みの具体例
		知	思	態		
1	<p>○導入活動</p> <p>ボールを使ってストレッチ、鬼ごっこ、動きづくり、コミュニケーションなどを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友だちと一緒に体を動かすと心地いい。 ・ボールを使ってストレッチしていくんだな。 <p>○試しの3対1ハーフコート3ゴールゲームを行い、目指す姿を確認する</p>				<p>単元の見直しをもつ</p> <ul style="list-style-type: none"> ●試しのゲームを基に生徒と単元の目標を設定する。また、単元目標を達成した姿と現在の達成状況を基に課題を整理する。 	
	<p>【ルール】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時間(1分)で攻守交代(一定時間で何点取れるか) ・誰も手は使えない(GKなし) ・手前のラインをドリブルでコートに入り、攻撃を開始する ・攻撃側がドリブルでコートに入るまで、守備側は点線よりゴール側にいる ・センターゴールはどこからでもシュートOK ・サイドゴールは、点線よりゴール側からならシュートOK ・以下の場合、最初から攻撃を始める <p>①コートからボールが出た</p> <p>②得点した</p> <p>③守備者がボールを足の裏で扱った(ボールを踏む)</p>	<p>【コート】</p> <p>タッチライン 18m、ゴールライン 20m ゴールラインから点線 6~7m センターゴール横 3m・高さ 1m サイドゴール横 2m、高さは紐</p>				
	<ul style="list-style-type: none"> ・得点するために必要なことを考え、身につけていこう。 ・点を取るためにはシュートする必要がある。 ・パスをつないでゴール近くまで行ってシュートしたい。 					
	<p>単元を貫く問い(単元問題): 空いている場所へ動いてパスを受け、ノーマークでシュートするにはどうしたらよいだろう。</p>					
2	<p>【学習問題】パスをゴール前の味方へつなぐにはどうしたらよいだろう。</p>					
3	<p>○ポストシュート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・狙ったところに蹴れるようにしよう。 <p>○セバレットサッカー</p> <p>6人グループを作り、グループ内で3対3のゲームを行う。</p>				<p>基礎的・基本的な技能の習得を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ボール操作の習得、ボールを持たない時の動きの習得に向け、ポイントとそれに応じた練習方法を共有する。 	
	<p>【ルール】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3人対3人のハーフコート ・時間(1分)で攻守交代(一定時間で何点取れるか) ・ゴールキーパーも手は使えない ・守備は足で防いでもよい ・手前のラインをドリブルでコートに入り、攻撃を開始する ・1のエリアからシュートOK ・自分のエリアから出られない(多少出ても大目に見る) ・以下の場合、1のエリアから攻撃を始める <p>①コートからボールが出た</p> <p>②得点した</p> <p>③守備者がボールを奪った</p> <ul style="list-style-type: none"> ・頭より低い位置で次のエリアにパスをする ・シュートは紐の高さまで <p>※初めはハンドパス、ハンドシュートで行ってもよい</p>	<p>【コート】</p> <p>タッチライン 18m、ゴールライン 20m、ゴール 3m</p>				

<p>【学習問題】どのような時にシュートやパスをすると得点しやすくなるだろう。</p>					
4	<p>○パスからのシュート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パスのタイミングに合わせて走ろう。 				<p>ボール保持時の優先順位</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.自分がシュート 2.味方にパスしてシュート <p>☆マークされていない味方にパスすることができているか、ゴール方向に相手守備がない状態でシュートできているか、練習やゲームの様子から評価する。</p>
5	<p>・走り込むスペースに、シュートしやすいパスを送ろう。</p> <p>○2対1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゴール方向が空いていたらシュートするとよさそう。 ・シュートできなければ空いている味方にパスをしよう。 <p>○3対2ハーフコート3ゴールゲーム</p>	☆①			
<p>【ルール】基本的なルールは試しのゲームと同様であるが、守備が2人になるため、以下のルールを追加する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・攻撃開始後、守備の一人は点線より前に出てよいが、もう一人は点線より前に出てはいけない ・ゴール方向に相手がいなかったからシュートしたら得点できた。 					
6	<p>【学習問題】空いている場所を使ってシュートし、得点を増やすにはどうしたらよいだろう。</p>				
7	<p>○パス&コントロールからシュート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・逆サイドの空いている場所へパスすれば、ノーマークでシュートまでいけそう。 	☆②		☆①	<p>課題解決に向けて協働的に学ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> ●作戦ボードを活用し、チームの動きについて全体で共有して追究する。そこからチームの課題を明確にし、その課題を解決するための練習方法を選択し追究できるようにする。 <p>☆パスを受けるためにゴール前の空いている場所に動いているか、ゴール方向が空いていたらシュートしているか、ゲームの様子から評価する。</p>
8	<p>■作戦を確認して3対2ハーフコート3ゴールゲームを行い、クロームブックで撮影したゲームを振り返る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゴール方向に相手がいるのにシュートしているときが多いから、空いている人を使えるようにしよう。 ・グループでノーマークにするための動きを確認していこう。 ・守備がどちらかに寄ると、反対のゴールが空くから、次回はそこを狙っていこう。 				
9	<p>【学習問題】チームの課題はどんなところだろう。</p>				
10	<p>■クロームブックで撮影したゲームの動きから、チームの課題を追究する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゴール方向に相手がない時にシュートを打っていないことが多いから、2対1の練習をしてゲームにいかそう。 <p>○単元のまとめをする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パスをつないでノーマークでシュートして得点できた。 	☆①	☆②	☆③	<p>自己の学びや変容を自覚する</p> <ul style="list-style-type: none"> ●できるようになった動き、見つけた動きのポイントや分かったこと、チームの仲間との関わり合いのよさを自覚・実感できるように学習カードにまとめる。 <p>☆これまでの学習を総括的に評価する。</p>



【単元のねらいを達成した生徒の姿】

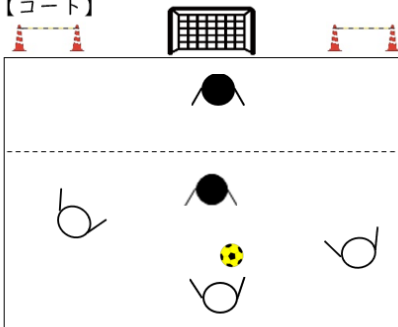
- ・得点できそうなゴール前の空いている場所へ動いてパスを受け、ノーマークでシュートできる。
- ・自分たちのチームの課題を考え、課題解決のために仲間に伝えたり、練習方法を選択したりすることができる。
- ・作戦ボードを使用して共有した動きを、ゲームの中でやろうとする。

(1) サッカーを素材とした教材化 ～学習者にとって「やさしく」「わかりやすく」～

① 用具の工夫

本実践では、学習者の実態に合わせて、空気圧を低くしたボールを使用した。空気を抜いたことで、ボールが跳ねにくく転がりにくくなり、止まりやすくなった。これにより、サッカーの経験が少ない生徒にとって、ボール操作（止める・蹴る）の難易度が下がるとともに、ボールが柔らかくなったことで体にボールが当たることへの恐怖心を軽減することにつながった。

② メインゲームの工夫

<p>【ルール】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時間（1分）で攻守交代（一定時間で何点取れるか） ・誰も手は使えない（GKなし） ・手前のラインをドリブルでコートに入り、攻撃を開始する ・攻撃側がドリブルでコートに入るまで、守備側は点線よりゴール側にいる ・センターゴールはどこからでもシュートOK ・サイドゴールは、点線よりゴール側からならシュートOK ・攻撃開始後、守備の一人は点線より前に出てよいが、もう一人は点線より前に出てはいけない ・以下の場合、最初から攻撃を始める <ol style="list-style-type: none"> ①コートからボールが出た ②得点した ③守備者がボールを足の裏で扱った（ボールを踏む） 	<p>【コート】</p>  <p>タッチライン 18m、ゴールライン 20m ゴールラインから点線 6～7m センターゴール横 3m・高さ 1m サイドゴール横 2m、高さは紐</p>
---	--

素材となるサッカーは、攻守が入り乱れたゲームであり、攻守の切り替えも瞬時に起こることから、ゲームの中でいつ・どこで・何を・どのように行うかの判断が難しい。また、ボールを持たないときの準備や状況を見ることについても、ゲームの展開の中で考えながらプレーすることが難しい。

これらの難しさを易しくするために、本実践ではハーフコート3ゴールゲームをメインゲームに据えていた。ハーフコートになることで、攻守の切り替えの局面がなくなり、学習者は攻撃と守備の局面の課題に焦点化して考えることができた。また、3ゴールにすることで、得点に有効なゴール前のスペースがわかりやすくなった。得点のためにどのスペースを使うかを学習者が考えやすくなり、有効なスペースを選択することが得点に結びつきやすくなったため、「課題の達成＝得点」となり自然とフィードバックが生まれるゲームとなった。

(2) 単元展開 ～メインゲームとのつながりを意識した活動を計画的に～

本実践では、メインゲームへのつながりを大切にした活動の設定がされていた。

試しのゲーム、セパレートサッカーとも、メインゲームで必要となることから逆算されてルール等が設定されている。学習者は、それぞれの学習段階に合わせたゲーム形式の活動を積み重ねたことで、ゲームを通して本単元の目標に迫っていくことができたと考えている。

(3) 1時間の活動の工夫 ～学習内容に合わせた準備運動～

実践校の保健体育の学習では、単元の内容に合わせた準備運動が取り入れられていた。本実践単元においても、学習に必要なボール操作や動きを取り入れた活動が準備運動として取り入れられていた。保健体育科の学習習慣づくりとして、どの単元でも授業の始まりに同じ準備運動をすることの良さもあると考えるが、限られた配当時間の中で単元の目標に迫っていくためには、授業の始まりの5～10分で準備運動としてどのような活動を設定するかは大切な視点となると考える。

(4) ICTの活用

本実践では、ICT機器（クロームブック）を活用してゲームの様子を撮影し、それを基に自チームの課題について考える活動を取り入れていた。グループでの話し合いの素材と

して映像を活用する場合について、研究会では「映像を見る際のポイント(何を見るのか)」「撮影の方法(方向、高さ、位置)」が大切であることが模擬授業後の話し合いから確認された。

授業での ICT 機器の活用

試合の様子を撮影し振り返りに活用していたが、作戦盤と連動していたのでスムーズに振り返りに入っていた。撮影場所も少し高めの視点から撮っていたので、全体を見渡せるように工夫がされていたと思う。しかし実際は、プレーヤーが小さくなってしまい、ゴール付近では細かい動きが見えづらい部分もあった。

試合の様子を振り返る場面では「このパターンはうまくいったね!」「この時はこうした方がよかったよね。」などの声が聞こえてきて、何度も映像を巻き戻しながら話す様子が見られた。女子が積極的に話し合い活動に参加できていたのも全体の雰囲気の良さにつながっているように感じた。

(5) 教育課程研究協議会本時の様子から ～生徒の活動の様子、教師の関わり～

作戦盤でコートエリアを意識しながら作戦を考える A チームの姿

授業記録 A チーム (○…生徒)

作戦確認の様子

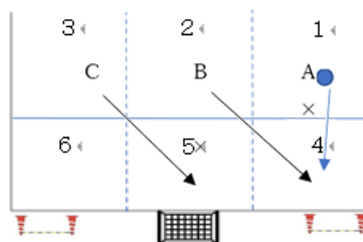
- ・ ③が「昨日と同じでいい?」と切り出すが、⑤や①中心に作戦を考えていた。
- ・ ⑤「(4エリアのゴールに) 直接は打てないね。」という発言を聞き、①が先生に「オフサイドはないですよね?」と質問し、オフサイドはないことを確認した。
- ・ ②「守りは一人しか出てこれない。」と発言し、下のような作戦を立てた。

【作戦】

エリア1のAからスタートし、エリア2のBが斜めに動いてきたところへパスし、Bがシュートする。

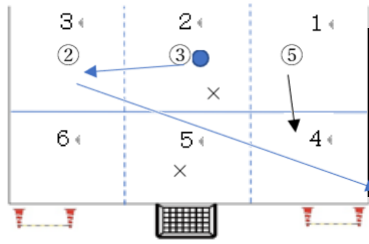
エリア3のCもゴール前に走り込み、AはBがだめならCにパスし、Cがシュートする。

×: ディフェンス ●: ボール →: パス →: 人の動き



試合の様子

- ・ 攻める機会は、6 回程度あったが、エリア2から左右にボールをパスしてスタートしることが多かった。
- ・ ①がドリブルでディフェンスをかわしてシュート、
- ・ ①から②へパスするも、トラップミスでゴールまで行けず。
- ・ 下の図のように③から②へパスがつながるも、シュートが入らず。



- ・パスをするも、トラップミスや、パスカットでシュートまで行けず。など
- ・①は試合が始まると仲間にアドバイスする姿が見られた。「パスをとばすじゃん？（ディフェンスが）付いてたら（パスしちゃ）だめ。付いてなかったら縦にパスしていいよ。」など。

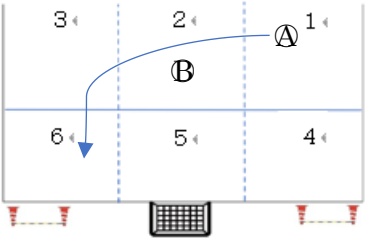
振り返りの様子

- ・①「シュートまでいけない。パスが弱い。」
- ・クロームブックで作戦を見て、言葉は少なかったが自分たちのプレーをよく見ていた。
- ・「これは良かった。」と振り返る言葉もあった。
- ・⑤の学習カードには、「作戦案のパスの出す位置はみんなできていたが、パスが届かなかったり、コントロールできないことがよくあったりして、足の前にゴールがあっても、シュートまでいけなかった。」というようなことが記入されていた。

グループでの話し合いと教師の具体的な提示から動き方について考えた B チームの姿

授業記録（○…生徒）

学習活動	教師の声掛け	生徒の様子など
スリーアップ	「アップから始めましょう。」	アップ活動を行う。
チームごと作戦の確認	・ B チームへの声掛けはなし	<ul style="list-style-type: none"> ・課題設定の際に、ホワイトボードで担任が示していたものと同じような動きを作戦としてチームで決める。(②さんの発言が有効であった) ・生徒の意識 <ul style="list-style-type: none"> ①速いボールだととれないが、遅いと、敵に取られてしまう ②一番最初にパスを出した人は、その後どうするのか
ゲーム	<ul style="list-style-type: none"> ・「いいよ、いいよ、ナイスシュート、作戦うまくいっているね。」 ・(ゴールが空いているのに、シュートをせずパスをした生徒に対して)「作戦通りじゃなくていいからね。ゴー 	1 回戦→4 回攻撃（シュート成功 2 回、相手にカットされる 2 回） 2 回戦→3 回攻撃（シュートミス 1 回、ディフェンスがいる状態でシュート 1 回、カットされる 1 回）

	<p>ル空いてたらシュート。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(作戦を相手に読まれて、詰まった状況を見て)「もっと空いてるところあるよ。」 	
チームでの振り返り	 <ul style="list-style-type: none"> ・((図のポジション) ④の動きを生徒に聞かれて) 「(図のポジション) ⑤の人の後ろを通過して、6番のエリアへ行くのはどう? (作戦板上のマグネットを動かして示す)」 	<p>(作戦板を動かしたり、動画を確認したりしながら)</p> <p>⑦「前半はうまくいったね。」</p> <p>⑥「(図のポジション) ④が動けなかった。どうしたらいいかわからなかった。パスした後行き場がなかった。(動画でそのシーンを出し、チームに見せる)」(図のポジション) ④の動きを教師に聞く→(教師の提案を聞いて)「あー。」と納得した。</p> <p>⑦「ここら辺にいたら、そこでいいの? って言われたけど、守備はどうしたらいいの? わからない。」</p>
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・「みんなすごいよかったよ。やりたいことはわかった。」 	<p>⑦発言「前半作戦がうまくいった。(図のポジション) ④の人の動き方がわからなかった。次は(図のポジション) ⑤の人の後ろから回ってゴールを狙う。」</p>

考察

- ・ B チームの生徒は、最初の作戦を立てる時に、全体で確認をした②生の発言内容を参考にして作戦を立てていたため、全体での確認は有効であった。また、作戦板上で確認した内容がチーム全員でしっかり共有できていたため、作戦板を用意したこと(コートが細分化されているなどの工夫も含む)も B チームにとっては非常に有効であった。
- ・ ゲーム後に、最初にパスを出した人がどのように動くかわからず困っていて、教師に質問をする姿が見られた。その際に、教師が具体的な動き方を示し、生徒は納得していたが、スペースを意識させて考えさせてもよかったのではないかと考えられる。
- ・ ゴール前が空いていても、作戦を優先してパスをしてしまう姿が見られた。教師から、「空いてたらシュートだよ。」という声掛けはあったが、ボールを持ったままではシュートを狙うことがもう少し意識付けるとよいのではないかと考えられる。

作戦盤と ICT 機器を活用した話し合いで学びを深めていく C チームの姿

授業記録 (〇…生徒)

【作戦盤を使って話し合いをしている場面】

- ・ ⑤生が作戦盤を使って前回の動き（トップから左側にボールを出し、DFが動いたら逆サイドがゴール前に走りこみ、パスしてシュート）をチームで共有。その後、動画で記録して実際にコート上での練習を行っていた。
- ・ 動き方が決まっていることで、サッカー未経験の生徒にとってはかなり動きやすくなっていた。
- ・ 作戦盤で動きを共有することで言葉よりわかりやすく、イメージを共有できると感じた。
- ・ 屋外で一つの画面を見るのは見えづらい様子だった。（反射してしまう）
- ・ コートの中で作戦の練習をしているとき、⑤生が「まずは積極的にゴールしよう」とチームに声をかけていた。
- ・ 「まずはシュート！」の意識を感じる声掛けがあり、毎時間意識させていたことが生徒に伝わっていると感じた。

【3対2ゲームの場面】

- ・ 作戦盤で共有した動き通りにチーム全員が動いていた。
- ・ 「DFが寄ってスペースができた場所へ動く」は達成できなかったが、「パスが出たらゴール前に動く」はできていた。一つでなく二つ作戦があってもよさそうだった。
- ・ 途中、作戦通りの動きばかりになってシュートチャンスを逃してしまう姿を見たとき、教師が「作戦通りじゃなくてもいいよ。ゴール空いてたらまずシュートだよ」と声をかける。その声掛けで⑤生が作戦とは違う動きをするが、ほかのメンバーは対応ができない時があった。
- ・ 作戦を作ってパターン化することで、動きやすいという良さと、それに縛られてゴールへの意識が薄れてしまう生徒もいる課題を感じた。
- ・ やることがたくさんあったこともあり、運動量の確保が課題となった。

【撮影した動画を使って振り返る場面】

- ・ 動画を見ながら、⑤生「前回よりうまくいったね」他「うなずき」自分たちの動きに満足しているような様子。
- ・ 実際に自分たちが動いている動画を見ることで、振り返る時に作戦通りだったかの確認がしやすくなっていた。
- ・ 高い台の上で、同じ場所から流しで動画を撮ることが見やすさにつながっていた。
- ・ 自分たちで考えた作戦が決まるうれしさが、実感だけでなく視覚的にもわかるのが動画に残す良さだと感じた。
- ・ 今回の振り返りの中では、作戦ができていたかの確認はしていたが、自分たちの課題に気付くことはその場ではできていなかった。「もっとよくなるにはどうしたら?」「うまくいかなかったときはどうしてだろう?」等の声掛けをする、または、もう少し時間をとれるとよい。

→⑧生のプリントの記述に「やってみると思った通りに行かなかったけど、守りのいない

ところに行くことができるとわかった。」とあり、発言をしていない生徒も課題と解決策を発見していた。自分の姿を動画で確認したことが有効だったと考える。次回以降で、この記述をもとに、今回とは違う作戦を立てたり、意識のポイントが見つかったりできるのではないかと感じた。

授業中の教師の様子

教師は、生徒たちとの対話の中で、できるだけ指示や指導を控え、生徒たちの対話や活動を促そうとしているように感じた。教師の出が必要場面と不要場面を考え、生徒に気づかせる場面と教える場面とを使い分けようとしているように感じた。導入では、時間を十分に使い学習問題と学習課題を明確にしていた。内容を確認する際に前時の生徒の振り返りから、生徒の言葉で問題を提起したり、良かった面や目指したい姿を決めだしていったりしたので、言われた活動ではなく自主的な活動に近づいたと感じた。丁寧な導入は時間を要するが、学習に主体性を持たせる上ではやはり必要だと感じた。

2 実践事例～教育課程研究協議会 午後の伝達講習会より～

単元名 「4エリア3X3」

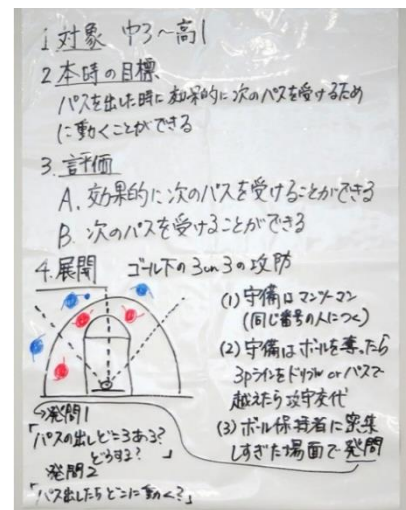
(ゴール型：バスケットボールコートを使用)

本時の目標 「パスを出したときに効果的に次のパスを受け
るために動くことができる。」

- ルール
- ・守備はマンツーマン (同じ番号の人につく)
 - ・守備はボールを奪ったら3Pラインをドリブルかパスで超えて、攻守が交代する。
 - ・シュートが入った場合は守備側がすぐにボールを3Pライン外に持って行き攻守が交代する。

発問例 「パスの出しどころはあるかな? どうする?」

「パスを出したらどこに動くといい?」



以上のルールで実際の授業をイメージしながら、講習を行った。ハーフコートをもっと4分割することで空いた空間が視覚的に分かりやすくなり、生徒が動くための助けとなる良さがある。また、決まった相手選手をマンツーマンディフェンスする約束事があることでディフェンスが完全にマークにつくまでのタイムラグができやすくなり、空いた空間を利用した攻撃が成功していく経験に繋がりやすくなることが予想される。

伝達講習会では、先生方が楽しみながらも、学習者の動きを想定して活動する様子があった。

五 研究のまとめ

今年度の研究を通して、学習者の実態に応じた教材化 (教材選択) や単元展開・授業展開の工夫の重要性について確認することができた。

教材化 (教材選択) については、学習者にとってわかりやすく、易しいものであることが大切であると考えます。そして、工夫された教材を使った学習を通して学習者にどんな力をつけるのかを教師が明確にもって授業に臨むことが必要であると感じました。

単元展開については、目指す目標の姿から逆算し、どのような活動を設定していくかが大切であると考え。また、1時間の授業展開についても、学習者の実態や単元・1時間のねらいに向かってその1時間の終わりの学習者の目指す姿から逆算して展開を見据えていく必要があると感じた。とりわけ、ボール運動・球技については、技術的な課題と戦術的な課題（ボールを持っているとき、ボールを持っていないとき、チームのタスク）の両方が存在するため、技術的な課題からの練習と戦術的な課題からの練習のバランスが大切であることが明らかとなった。戦術的な課題へのアプローチについては、A・B チームの活動の様子からわかるように、作戦盤といった視覚的に動き方や作戦を確認することができる工夫が有効であった。コートと同じエリア分けがされた作戦盤で動き方について話し合うことで、チームや個人の課題や疑問が明確になった。また、それに対する教師の働きかけにより、生徒の戦術的な理解が促されていったと考える。

今回の実践校の授業では、A・C チームの活動の様子からもわかるように、ICT機器の積極的な活用が、学習者の学びにとって大きな支援となっていた。撮影した映像から、学習者が自己の姿やチームの様子を客観的に分析することで、チームでの関わり合いが活性化されていた。十分な運動学習時間を確保しながら、さらに学習者の学びの深まりにつながるようなICT機器の活用について、今後も研究の視点としていくことができると考える。

実践校では、日頃より体育の学習を男女共修で行っている。授業づくりでは、教材化でのルール
の工夫、用具の工夫、チーム編成での配慮等、男女が一緒に関わりながら単元の目標に向かっていくことができるような授業づくりがされていた。今回の教材化や単元展開についても、このような視点からの工夫が多くされており、様々な児童生徒と一緒に学び合い、学習を楽しむことができる体育学習に向けての参考になるものである。

学習者の主体的な学習への取り組みが、学習者同士の対話や自分自身との対話を促し、結果として深い学びへとつながっていくことを、実践を通して考えることができた。今後も、学習者の主体性を促すより良い教材づくりや教材活用の方法、体育・保健体育科の学習で育むべき汎用的な力について研究を深めていくことができると考える。